

景観フォーラム 9号

日本景観フォーラム会報 9号 (2013年4月1日)

<巻頭言>

春爛漫の季節が到来しております。春は桜、そしてその花びらの乱舞を見ながらいろいろな思いに浸るといふ日本人は、季語という俳句の世界を創り、季節の変化をことのほか大切にしてきました。季節の変化を敏感に感じ取るとは自然を大事にすることに通じることでしょうか。

先般、パナソニック汐留ミュージアムで開催しております「日本の民家 1955年—二川幸夫・建築写真の原点」という展覧会に行ってきました。1955年時点の日本国中の民家の写真群で、そこに風を感じさせるような家並みが、まるで昨日撮ってきたばかりと言う具合にありました。白黒写真でありながら、そこに日本の季節を感じさせる原風景が立ち現われてくる、何か言葉では表せないようなものがありました。

時間、そして静かに流れる何か。写真家二川幸夫は言っております。「家が主役ではないのだ。主役は風景なのだ。」と。“景観まちづくり”にとって、実に意味深い言葉かなと思いました。

(斉藤全彦)



《予定》

セミナー

- ・ 4月26日(金) 18:30~20:00 「路面電車によるまちづくり」
- ・ 5月24日(金) 「鎌倉に関するセミナー」(予定)
- ・ 9月17 or 20日 「多摩に関するセミナー」
- ・ 11月15日(金) 「テーマ未定」
〈会場〉市ヶ谷、JICA 研究所

景観まちあるき

- ・ 6月22日(土) 鎌倉市
- ・ 10月18日(土) 未定



特定非営利活動法人 日本景観フォーラム

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 14-5-502

TEL 03-3780-3814

FAX 03-6379-6681

E-mail info@keikan-forum.com

URL : <http://keikan-forum.com/>

VOICE

●「美しい村」づくりのために……………市原 実（NPO日本で最も美しい村連合）

「失ったら2度と取り返しがつかない・・・。本当の美しさは、ムラにある・・・」というキャッチで、加盟49自治体・地域で、活動を展開中です。この団体「NPO日本で最も美しい村連合」の市原実です。

私は、4年前までは、山梨県立大学で、地域振興を担当の教授をしていました。いまは、定年になり、自由の身でありますので、この組織を応援しています。

この団体の現在の課題の1つに、どう地域をきれいにしていくか、ということです。「美しい村」を標榜しているわけですから、当然にも、来訪者は、何らかの美しさのあることを期待します。

まずは、町村内の散乱させぬようにゴミを取り除き、路傍の雑草を刈り、花を植栽するなど、まずは、見た目の地域の美観を創り出すことが求められます。

問題は、醜いなどという負の除去だけではなく、新たな美の追求をすることこそ、最終の目的と考えています。

加盟自治体の半数に、「景観条例」の類が制定されています。しかし、加盟自治体の入会条件が、人口1万人以下ということからか、まだ制定されていない自治体も多いのです。また、制定済みでも本来の核心に合致しないものも見受けられます。

そこで、この課題の学習のために、入会させていただきました。



●歴史的文化的都市鎌倉……………松尾 崇（鎌倉市長）



皆様 こんにちは。

この度、会員に加わらせていただくことになりました鎌倉市長の松尾崇です。

鎌倉で生まれ育った私にとって、鎌倉の寺社や自然は身近な存在でした。鎌倉は、海と山の美しい自然環境に恵まれ、我が国を代表する歴史的文化的都市です。そして多くの歴史遺産と緑がとけあい風格のある古都の景観が形成されています。この貴重な遺産を守り、育て、日本の歴史・文化を世界に発信していくために、鎌倉は今「武家の古都・鎌倉」として世界遺産登録に向けて着実に歩みを進めております。

かつて、高度経済成長の時代、鎌倉にも宅地開発の波が押し寄せました。その折、多くの市民、文化人が立ち上がり、古都保存法を成立させました。これら先人の取組を礎として、その後、鎌倉独自の景観条例の制定や、景観法に基づく景観地区の指定など、古都に相応しい景観づくりに努めております。

このように、都市景観の形成は行政だけが取り組む事柄ではなく、市民・事業者・行政それぞれが役割を持ち、お互いに協力しながら取り組んでいくことが重要です。鎌倉が魅力と活気にあふれ多くの人々の心を惹きつけるまちになるよう、皆様と一緒に取り組んで参ります。今後とも宜しく願いいたします。

●残すべき文化は何なのか ……………村岡 俊之（環境経営コンサルタント）

東急大井町線の自由が丘駅。溝の口方面の電車は、自由が丘駅ホームに入る直前の踏切を徐行で通過するためにブレーキを掛ける。

以前は、踏切手前で徐行することなく電車は駅のホームに止まれるスピードでブレーキを掛けていた。

いつ頃からか、踏切の遮断機が下りてすぐに電車が来るのを知っているのに遮断機の棒を潜りぬけて渡ろうとする人を頻繁に見かけるようになった。

鉄道会社は事故が起きてからでは取り返しがつかないことになるとの考えからか、電車をその踏切手前で徐行させるようになった。

個人の自由を尊重しすぎて、他人の迷惑を省みない行動をする人が年々増えているように思える。そこには倫理・道徳は存在しないのか。

街の景観にもあてはまるように思える。土地は我が国では個人（法人）に所有権があり、その土地の上に個人（法人）の考えで自由に建物を建てられる。

東京都内には、皇居、旧芝離宮、浜離宮、小石川後樂園、六義園など落ち着いた雰囲気のある庭園がある。しかし最近では、その庭園を望むことが出来るのが売り文句の高層ビル・マンションが出来ている。ビル・マンションの使用者は庭園の入園料を払わずに我がモノのように見下ろすことが出来る。しかし、庭園に入って利用する人からは、広い庭園の向こうに続く空をそのマンション・ビルによって分断され興奮めな思いをする。一方の側にはメリットがあるが、もう一方の側にはデメリットになるような土地利用で良いのか。

私たちが後世に残すべき文化は何なのか、議論すべき時にきているのではないだろうか。



●はじめまして ……………山野邊 友美（建築コンサルティング）



はじめまして。山野邊友美です。

この景観フォーラムに入ったきっかけは自分の仕事にありました。私の仕事は設計及びコンサルティングをしています。不動産業者からの収支ありきの建築やたまたま建築家とのデザインリフォームなどをしていくなか、家そのものを飽きの来ない美しいデザインにする以上に、ズームアウトした場合の街全体としての美しさが伴わなければ美しい日本の復活は難しいのではと考えていました。またそうでなければ街の活性化やそのものの資産価値の向上は今後難しいでしょう。

そうかと言って所有権の強い日本において街全体で協調させる事は至難の業と思いました。しかし、ある時パターンランゲージという言葉を知り、景観について調べる日々を迎えました。日本人に宿っているはずの美の景色が失われてしまった今、沢山の方に景観の大切さを知って頂きたいという思いがあります。

景観フォーラムは、私の既成概念を払拭し景観とは何かを教えてくれる大切な場所になると思います。

そして、これから皆様と街あるきやセミナーを通して交流できることを嬉しく思います。まだまだ勉強不足の身ですが、どうぞよろしくお願ひ致します。

世界の景観めぐり 第1回

レッチワース・ガーデンシティ（イギリス）

レッチワースは田園都市の提唱者、エバネッツ・ハワードの計画に基づき、ロンドンの北方約50kmのなだらかな丘陵地帯に、1903年から開発がスタートした世界で最初のガーデンシティです。

当初は交通も不便で、入居者がなかなか集まらなかったようですが、交通事情の発達とともに、商業地区にも多くのテナントが集まり、町が成熟し、今では人気の高級住宅地となっています。

その住宅地の景観は、100年以上が経過しているにも関わらず、まったく古さを感じさせることなく、道路と街路樹と住宅がうまくマッチして、落ち着いた統一感のある街並みを形成しています。

この街並みの美しさを生み出している要因としては、以下のことが考えられます。

- ①日本のようにコンクリートやブロックで宅地造成をせず、自然の地形を生かしている。
- ②道路から住宅の壁面まで広くセットバックされている。
- ③住宅が芝生や生け垣などの緑におおわれている。
- ④住宅の外壁はレンガまたは漆喰で、漆喰は白系統のアースカラーで統一されている。
- ⑤屋根が同じような勾配で、茶系統の色で統一されている。
- ⑥洗濯物が外に干されていない。
- ⑦電柱がなく地中化されている。
- ⑧広告や自動販売機が一切ない。

などがあげられると思います。

さらに日本の住宅と大きく違うところは、一戸建ての住宅がほとんどないことです。一見すると気が付かない場合もありますが、ほとんどすべての住宅が2戸以上の連棟式になっています。これも街並みの統一感を生み出す要因になっていると思います。ただ、連棟式であっても個々の住宅は窓や玄関のデザインを微妙に変えているので、統一感の中にも個性を持たせています。

このレッチワース・ガーデンシティは日本にも影響を与え、田園調布などの住宅地にその手法が取り入れられています。しかし、現在の田園調布を見てみると、古い住宅は建て替えられ、個々の住宅はそれぞれ豪邸ですが、デザインや色は所有者の好みにまかされ、バラバラで、かつ高い塀に囲まれているため、美しい街並みは完全に失われています。

現在まで、多くの日本の建築家や都市計画家が、勉強のためレッチワース・ガーデンシティを訪れ、その美しさに感銘を受けていると思いますが、なぜか日本ではそれに比するだけの美しい街並みを実現できていません。国情や国民性の違いと言ってしまうかもしれませんが、海外の事例をさらに真剣に学ぶ必要があると思います。

（小林 均 楸グローバル研修企画代表）



TAKO TAKO あがれ

万歳！ニッポン……………豊村 泰彦

日本には「万歳！」という面白い習慣がある。選挙で当選したり、鼻肩の競技チームが勝利を決めたときに「万歳！」している。私も最近「万歳！」することが多い。別に選挙に関わっているわけでも、スポーツ観戦をしているわけでもなく、なんでも「万歳！」してしまう。もちろん声には出していない。なぜ「万歳！」するのかというと、頭を使いたくないからだ。考えるのが面倒、考えないで今吹いている風に靡こう、波間に浮かんでいようというときに、素直に「万歳！」が出る。「アベノミクス、万歳！」「金持ち民主主義、万歳！」。別に賛成しているわけでもない。考えていないのである。

人間、考えないとこんな幸せなことはない。でも日本人は深く考える人は少ないようだ。東日本大地震で日本国中がさんざん痛い目に遭っているにもかかわらず、停止した原発を早く再開して、節電なんて気にしないで景気よく電気を使おうとか、津波が来ても避難しないでゆっくりテレビが見られるよう、高さ20メートルくらいの堤防をつくろうという人がいて、そこにはかならず「万歳！」の声なき声が聞こえる。どこであろうと「万歳！」で盛り上がるようになることはいらない。太平洋戦争終突入時の日本は盛んにやっていた。最近でも、北朝鮮が長距離弾道ミサイルを打ち上げたときに朝鮮国民はこぞって「万歳！」を叫んでいた。だから、「万歳！はアブナイ」、「バンザイ！はコワイ」というわけ。みなさんも注意ませう。

L F J ブックレビュー 29 …………… 『風景学—風景と景観をめぐる歴史と現在』
中川理著 共立出版 2008年刊

「景観なんて主観的問題ではないのか！自分がいいと思えば良いし、悪いと思えば悪いのではないか！即ち、学として論ずるに値しないというものだ！」また、「良いとか悪いとかいうような二者択一はどうかと思う。」と言うご意見もある。しかし、景観は風景とは異なり、コミュニティが共有するという大前提がある。風景は人間がかかわる環境への反応であり、私達が自分の生命を維持する何かを持っている。解り易く言えば「風景」は個人が持つ生きるための基本であり、「景観」とはその風景を持つ一人ひとりの集まり即ちコミュニティとして、客観的に論じられる対象である。

景観を論ずる場合、その前提として風景というものをじっくり考える必要がある。この「風景学」はその辺のところをしっかりと捉えており、「景観」を論ずるための必読書と言える。著者はまず最初に「風景は主観的な審美的判断が含まれるのに対して、景観はより客観的で普遍的なものとして捉えるのが一般的な解釈だ。」と高らかに宣言する。そして「景観はその後、眺めに対してより客観的な評価が必要になって波及した言葉」と指摘する。第1章風景以前の風景、第2章風景の発見・第5章近代主義が作る眺め、という具合に人類が風景をどのように把握してきたかという問題に接近し、第7章風景から景観へ、という問題に入り日常生活の中で風景と景観がどのような関わりを持ち、歴史的変遷と現在の風景と景観の問題を提示している。第1節では風景が介在しない眺めとは何かに答え「風景価値の共同が困難となる背景には、都市に生活する人々の共同性そのものが極めて不安定で不確実なものになってしまった事態があった」としてコミュニティの問題に触れている。第2節で風景に代わる景観、第3節は美しさから快適さへ、として美に代わる根拠を提示する。第4節景観工学の成立として行政の対応を述べ、第5節景観の矛盾として、現代の景観生態学を論じている。そして第9章では郊外風景の没場所性という極めて現代における景観問題を取り上げる。

風景を景観 Landscape の基底と考える時、景観は視覚だけではなく聴覚・触覚・味覚・臭覚という人間の五感すべてを前提にすると言わざるを得ない。確かに、視覚は景観の大きな部分を占めてはいるが、音景観 Soundscape も人間の感覚の大きな要素になっている。まさに景観とは、過去から人類が体験してきた生の記憶であり、その記憶と今現在体験しつつある観念との協働作業である。(斉藤全彦)